

助産婦雑誌 第54巻 総目次

2000年1 - 12月

(表題は、題名：筆者名、号数、開始ページ数)

特集

[1月号]助産婦たちのグループ・プラクティス

瑞穂助産所：大先輩の築いた社団法人助産院に新しい
考えと方法を取り入れて：増子美恵子，1，9.

横浜助産婦ネットワーク“SANBA”：分娩時の助け
あいも勉強会も：山本詩子，1，13.

ホーム・バース“産”：3人チームで家庭分娩：平岡と
み代・嶋村克子・岡橋千里・織田智子，1，18.

松山助産院：地域・勤務，ベテラン・若手助産婦たち
の開業助産院：武智恵子，1，22.

ハローベビーこうとう：チームワークで江東区の母子
にサービスを提供：窪田吹子，1，25.

鹿児島中央助産院：県助産婦会が運営する共同助産
院：小牧敏子，1，29.

笹下助産院：地元の診療所と密着したオープンシステ
ム：笹下弘子，1，35.

助産婦グループ『サンバ』：グループで毎日幅広く電話
相談を受ける：木村和子・木下純子・木村泰恵・木
村泰代：1，39.

片桐助産院：大きな変化を経験して，バランスのとれ
た実践を見いだす：片桐弘子，1，44.

沖縄本島の助産院：産む人中心の助産婦ネット：小森
香織：1，48.

BUMPS：英国の「出産改革」の取り組みから生まれた
グループ助産方式：宮本雅子：1，51.

[2月号]性同一性障害とインターセックス—その人が 納得の性を生きるための支援

自己の性に違和感をもつ人を社会はどう対応してきた
か：東優子，2，9.

性同一性障害は“障害”か：岡部恵子，2，16.

TSの人への関わりをとおして看護の役割を考える：
松岡弘子，2，21.

性別再割り当て手術(SRS)：原科孝雄，2，27.

親としてわが子にしていられること：上原博美，2，32.

インターセックスの子どもへのマネジメントガイドラ
イン：M. Diamond・H. K. Sigmundson・(訳)針間克
己，2，35.

インターセックス：出生時から思春期までの性的自己

認知様式の変貌と問題点：田苗綾子，2，42.

トランスジェンダーとインターセックスのセクシャ
ル&リプロダクティブ・ヘルス/ライツ—新しい
生殖技術との関わりを含めて：斎藤有紀子，2，49.
性同一性障害・インターセックス者の戸籍問題：大島
俊之，2，54.

[3月号]周産期医療事故—母と子を守る助産婦になる 周産期医療事故総論—助産ケアの視点から：石井ト ク，3，9.

周産期医療事故の全体像：増田聖子，3，15.

医療事故—そのヒューマンファクター：黒田勲，3，
22.

事故を防ぐ基本は真のチーム医療から：進純郎，3，
27.

天理よろづ相談所病院の事故防止への取り組み：瀬川
富美子，3，33.

周産期における医療事故被害者の心的外傷と助産婦の
責務：野口恭子・石井トク，3，38.

岩手医科大学病院における母体死亡とニアミス症例：
工藤智彦・中田尋晶・利部正裕・小山理恵・福島明
宗・吉崎陽・松田壮正・井筒俊彦・利部輝雄，3，
43.

周産期医療訴訟の全体像：久保田隆子，3，48.

陣痛促進剤の適切な使用を望む：出元明美，3，55.

病院事務局長の立場から，産婦人科領域の事故防止に
についての提案：森 進，3，61.

[4月号]クオリティーの高いマタニティクラス

出産準備クラス総論：戸田律子，4，9.

浦添総合病院の内容充実「プレママスクール」：川上あ
つ子・村田育子・浜川由美子・喜納春江，4，16.

座談会も組み込んだ堀永産婦人科医院の参加型マタニ
ティクラス：渡辺しおり・河野富代・高屋洋子・後
藤紀美恵・大江洋美・高屋亜由子・松井かおり・松
下ゆかり・中山和子，4，22.

プレママとプレパパのサポーター葛飾赤十字産院「多
胎両親学級」：澤田桂・竹内正人，4，29.

体験型両親学級。広島助産婦ネットワーク“ゆりか
ご”の試み：川口一美・成田伸，4，35.

「両親」から「家族」へ。長崎 C キューブのマタニティ
クラス：野間田真紀子，4，41。
イメージリーを使った陣痛直前講座「臨月クラス」：河
合蘭，4，45。
「おなかのなかからの育児クラス」を主宰して：敦賀陽
子，4，50。
横浜市磯子保健所の「お父さんの出産・育児教室（両親
教室）」：平井他美子，4，55。
オンラインサービスを活用した妊産婦支援「ぶれま
まクラブ」の運営：川原志津・井上雅美・石井尚美，
4，62。

[5月号]周産期ホリスティック・ケア

癒しの復権：ホリスティック医学：帯津良一，5，9。
東洋医学的アプローチによる周産期ケア—主として鍼
灸医学的アプローチについて：矢野忠・笹岡知子，
5，13。
鍼灸師からのメッセージ—助産婦さん，地域で連携を
図りましょう：辻内敬子，5，19。
研究：ツボ療法で母乳分泌促進：白石節子・矢野裕
子，5，24。
マッサージ・タッチケア——その潮流と効果：井村真
澄，5，29。
ベビーマッサージの実際：達野百合子，5，34。
インタビュー／リフレクソロジー（足の反射療法）ご存
じですか—リフレクソロジスト長須千賀子（MAR）
さんに聞く：（聞き手）本誌，5，39。
アロマテラピーケア：宮川明子，5，46。
英国で周産期ホリスティック・ケアはどのように受け
止められているか：夏目奈緒子，5，51。

[6月号]国際認定ラクテーション・コンサルタント （IBCLC）による母乳支援

インタビュー／母乳育児があたりまえにできる環境を
ともに作り出すために：ジョアンヌ・スコット氏，
ロス・エスコット氏，聞き手／本誌，6，10。
母乳支援カウンセリング：本郷寛子，6，15。
母乳育児成功のために—「母乳育児 10 カ条」のエビデ
ンスを中心に：瀬川雅史，6，21。
母乳不足のお母さんと子どもへの支援：瀬尾智子，6，
27。
授乳中の乳房の腫れとそのケア—乳房の緊満から乳腺
炎まで：井村真澄，6，32。
乳首のトラブル：金森あかね，6，39。
乳離れの援助：金森あかね，6，43。
母乳育児のための出産前教育：涌谷桐子，6，48。
母乳育児中の母親の食事と離乳食：武市洋美，6，55。
適切な吸啜ができない赤ちゃんへのトレーニング法：
シェール・マーメット，エレン・シェル，（訳）涌谷
桐子，6，60。
低血糖の予防と対処法：WHO のガイドライン：瀬尾
智子・本郷寛子（訳），6，69。

JALC のダイオキシン問題に対する声明：日本ラクテ
ーション・コンサルタント協会（JALC），6，72。

[7月号]DV は女性の健康問題である

DV（ドメスティック・バイオレンス）は女性の健康問
題である—心と身体に及ぼす影響：野田順子，7，
9。
DV という新しい認識の確立：友田尋子，7，15。
助産婦として DV に取り組む：八幡悦子，7，21。
病院における DV の認識・経験—実態調査から見え
てきたもの：友田尋子・菅田貴子・明石知子・荻田
幸雄，7，27。
DV 被害者への心理的サポートの実際：川喜田好恵，
7，34。
支援者のための DV トレーニングマニュアル：堀琴
美，7，39。
アメリカ，マサチューセッツ総合病院における DV
対応プログラムと医療スタッフトレーニング：山田
真由美，7，45。
男性はなぜ妻・恋人に暴力を振るうのか：中村彰，7，
50。
いざという時の相談窓口：高田昌代，7，55。

[8月号]どう援助していますか。外国人妊産婦

楽しんでますか。在日外国人妊産婦の看護—在日外
国人妊産婦の看護で問われる助産婦のあり方：井上
千尋，8，9。
なにが問題なのか—日本の現状をみる：谷口千絵・佐
藤千史，8，14。
ブルガリアと日本での出産体験記：ヴェリーナ・P・ベ
ロノワ・訳/岩本美佐子，8，17。
外国人妊産婦を助けたり，教えられたり。開業助産婦
としての具体的支援：岩本美佐子，8，22。
より良いコミュニケーションはいかにしたらとれるか—
中国人とバングラデシュ人の出産ケア体験から：
篠田優子・森朋子・稲垣直子・梅田雅子，8，28。
「外国人通訳」を配置した小牧市保健センターにおける
母子保健事業：江崎みゆき・小林敦子，8，32。
愛染橋病院における外国人妊産婦への援助—ネットワ
ークサービスシステムの運営：稲尾恵美子・中山説
子，8，37。
愛育病院における外国人の出産—10 年の試行錯誤を
振り返って：小野紀子，8，43。
子どもの命に国境はない—無国籍状態にある子どもに
ついて：李節子，キャロリン・S・スティーヴンス，
8，50。
日本の医療に望むこと—AMDA 国際医療情報センタ
ーへの電話相談より：香取美恵子，8，58。

[9月号]母性・父性から「育児性」へ

母性・父性から「育児性」へ：大日向雅美，9，9。
5 人の子育て体験記：広岡守穂，9，14。

現代の母親はダメになったのか——歴史からの考察：
広田照幸，9，20.
母子癒着社会における夫婦関係と父性：小浜逸郎，9，
25.
男も女も「仕事」と「家庭」の2教科時代：金子雅臣，9，
31.
保父と呼ばないで：矢吹秀徳，9，37.
子は父を育てることがある——パートナーシップのす
め：藤原和博，9，42.
現代父性論：汐見稔幸，9，47.
「愛する能力」を考える：岸良範，9，52.

[10月号]どう考える。硬膜外麻酔分娩

米国で分娩時に用いられる硬膜外鎮痛法：ジュディ
ス・P・ルークス，10，9.
硬膜外麻酔分娩とは：岡憲史，10，15.
誰がお産の主役か——米国での硬膜外麻酔分娩のケアを
ととして：大石時子，10，20.
分娩中に使われる硬膜外麻酔剤の母子への影響：ドリ
ス・ヘア，訳/戸田律子，10，26.
魚に水は見えない——硬膜外麻酔の危険性を知ろう：マ
ースデン・ワグナー，10，30.
硬膜外麻酔分娩が必要な産婦は誰か：久靖男，10，
35.
硬膜外麻酔分娩を選んだ女性たち——心と体の背景：
河合蘭，10，40.
EBM 勉強会「硬膜外麻酔分娩—作用・副作用・看護
について」参加記：安達桃子，10，46.
産痛は赤ちゃんの力：川野裕子，10，50.
パニック状態になった産婦のケア—助産婦は産婦を尊
重し，受けとめ，いつでも側に：片岡弥恵子，10，
53.

[11月号]周産期クリニカルパス

クリニカルパスのねらい：小林美亜・池田俊也・池上
直己，11，9.
クリニカルパスの運用：福井トシ子，11，17.
周産期クリニカルパスの作成。医師の立場から：土屋
清志，11，23.
妊娠期クリニカルパス：湘南鎌倉総合病院：小黒道
子・市坪史子・中島直美・山村智恵・井上裕美・長
谷川充子，11，25.
妊娠期クリニカルパス：杏林大学病院総合周産期母子
医療センター：日高美弥子・鈴木有美・馬見塚知
子・小田切祐子，11，31.
分娩期クリニカルパス：湘南鎌倉総合病院：井上裕
美・長谷川充子・山村智恵・市坪史子・小黒道子・
中島直美，11，34.
産褥期クリニカルパス：国立高知病院：萩野ユカリ・
佐藤愛美・橋田郁子，11，39.
産褥期クリニカルパス：NTT 東日本関東病院：口石
みゆき・戸井君子・坂本すが，11，44.

産褥期クリニカルパス：東京都済生会中央病院：三浦
洋子・山本充子，11，47.
産褥期クリニカルパス：湘南鎌倉総合病院：山村智
恵・井上裕美・長谷川充子・市坪史子・小黒道子・
中島直美，11，52.
産褥期クリニカルパス：杏林大学病院総合周産期母子
医療センター：日高美弥子・高崎由佳里，11，55.
予定帝王切開クリニカルパス：杏林大学病院総合周産
期母子医療センター：日高美弥子・小山登志美，
11，60.
予定帝王切開クリニカルパス：湘南鎌倉総合病院：市
坪史子・小黒道子・中島直美・山村智恵・井上裕
美・長谷川充子，11，63.
新生児クリニカルパス：国立南和歌山病院：新谷元
子・成川晴美・山本明美，11，67.
正常新生児クリニカルパス：NTT 東日本関東病院：
口石みゆき・戸井君子・坂本すが，11，72.
[座談会]クリニカルパス導入で改善できたこと：福井
トシ子・黒川寿美江・坂本すが・馬場孝江，11，
75.

[12月号]助産婦の100年—世紀を超えるもの

産婆の近代から助産婦の現代へ：大出春江，12，9.
出産は産む人のもの—地域共同体が支えた産む人の安
心：吉村典子，12，15.
医療の中の助産：松岡悦子，12，21.
助産婦は正常産の専門家：佐藤香代，12，27.
[対談]日本助産婦会と日本看護協会：歴史と課題：渡
部尚子・岡本喜代子，12，34.
21世紀を生きる助産婦へ—原身体経験の最後の砦の
守り手として：三砂ちづる，12，39.
[鼎談]21世紀助産へ！—変革を怖れない助産婦に：
大出春江・三砂ちづる・堀内成子，12，45.
[インタビュー]4代続く桃太郎助産院の皆さんに聞
く：古園井フジ枝・古園井恭美・古園井美和・†古
園井ヨソノ(故人)，12，50.

特別記事

インタビュー/21世紀の女性の健康を見据えて—厚生
省新母子保健課長に聞く：藤崎清道・(聞き手)大出
春江・番内和枝，1，58.
インタビュー/「ウイメンズサロン」を開設しました—
開業助産婦 矢島床子さんに聞く(聞き手/本誌)，3，
66.
「いいお産の日 in '99」〜みつめたい「今」
① グラフページ：写真/宮崎雅子，3，72.
② レポート：永田芳枝，3，74.
③ 全国ネットワークレポート：永田芳枝，3，76.
インタビュー/「国境なき医師団」に参加，アフガニ
スタンで半年活動しました：渡辺知，6，77.
対談/ガーナに助産院を開業したい—日本での研修を

生かし協力しましょう：マーティ・まりこ、アイリス・ボアテーノ・ポッチュエ，7，78。
インタビュー／ジュディス・ルークスさんに聞く．米国マタニティ・センター・アソシエーションの歴史と現在：ジュディス・ルークス，（通訳）近藤潤子，9，65。

特別寄稿

オランダ自宅出産体験記：杉上貴子，1，64。
栃木県の妊婦の出産に対するニーズ：分娩方法・体位・処置：早川有子・内藤和子・竹中美・大井けい子・大谷美和子・坂野ゆき子，1，72。
小さな「お産の家」で，私たちがめざすもの：大野明子，2，61。
アメリカのドゥーラを訪ねて：宮里邦子，2，67。
新ミレニアムに「助産師」の課題を卒業しよう：森山幹夫，4，68。
高齢社会における女性のQOLと更年期を考える－国際閉経学会参加報告：大石時子，4，74。
マレーシアでの異文化体験から多様性とやさしさを学ぶ－日本人女性の会「まじゃ会」に参加して：井上千尋・李節子・小野紀子，5，57。
日本における水中出産の歴史と現状：土谷美恵・成田伸・中野美佳・喜多淳子・山本智子，7，63。
第4回国際ホームバース会議レポート－自宅出産の国オランダのアムステルダムにて：戸田律子，7，70。
会津の助産婦として生きた母の物語：小林康乃，8，63。
宮城県における「助産士」問題意識調査：佐藤喜根子・三浦晴子・八木橋香津代・菅野智子・高橋順子・神文子，8，71。
「出産のヒューマニゼーション研究会」の発足にむけて：進純郎，9，58。
チンパンジー「アイ」の妊娠・出産・育児：上井稔子・友永雅己，10，59。
子宮脱・子宮下垂に関する実態調査：宮崎文子・草間朋子，10，64。
オーストラリアのチャイルドアブュース（子供虐待）：大原良子，10，69。
WHO 神戸センター主催「女性と健康」国際会議報告記－考え行動するのは女性自身：長尾紅子，11，81。
助産婦はなぜ，女でなくてはならないか：田島恵子，12，56。
オランダのペリネイタルケアを考えるシンポジウム「KAN HET ANDERS」参加記：小出久美，12，63。

連載・助産婦のための疫学入門：三砂ちづる

文献検索の方法，1，79。
“有意に差がある”とは，どういうことか，2，80。

論文の読み方－いろいろな研究の種類，3，82。
続・論文の読み方－オッズ比，偽陽性などを理解する，5，68。
質的方法を用いた研究：Qualitative Research－数字の持つ意味を超えて，6，83。
母子保健の基本的指標－妊産婦死亡率を中心に，7，84。
疾病の頻度計測－prevalence と incidence，8，79。
疫学研究の倫理－データ収集の基本，9，72。
“ブレイクスルー” 疫学にむけて，10，75。
バイアス，誤差，交絡因子とは何か，12，68。

研究・調査・報告

大草レディスクリニックにおける産後家庭訪問の評価調査：坂本友起子・田村一代・伊志嶺友美・松原美紀・大草尚，5，62。
冷凍冷蔵母乳の安全性および有用性の検討－細菌と抗病原体因子の経時変化について：近藤由香・河野知子・池田清美・安永由美子・村上里枝・由賀恭子・城本すみえ・和田由香里・田口あい子・高瀬光徳，6，89。
体外受精と生殖医療の法規制に対する助産婦の意識：古田祐子・山口桃恵・澤原加奈子・姫野由紀・藤田雅代・吉田恭子，9，77。
母乳栄養児の母親の意識調査－断乳の時期を検討するために：吉橋和子・福田良子・石川房子・成清マサキ・伊藤憲美・中村徳美・伊藤順子・加藤則子，11，89。
助産婦として小学生に「命の大切さ」を伝えたくて：熊谷則子，12，73。

ケースレポート

脊髄損傷合併妊婦の外來での看護－地域と施設が一緒に支援して成果を得る：伊藤夏代・小寺佐由美・浅野直子・宮田政江・佐藤恵子・塩成子，2，73。
予後不良の胎児異常を告げられ混乱をきたした妊産婦の看護：渡辺千枝・小野美可・安部いずみ・島田紀美・三々尻かおる・田中恵子・松尾壽子・富安俊子・武内珠美，5，74。

私の出産体験記

5日間の陣痛も正面から受けとめて賜ったいのちの誕生：大西泉・早坂温，4，82。

トピックス

日本不妊看護ネットワーク（Japan Infertility Nursing Network：略称 J.I.N.N.）ができました！，1，77。

厚生省看護課最近の動き, 4, 61.

世界的医学雑誌『Lancet』誌のレター欄に日本の助産院の質の高さについての報告が掲載される, 9, 86.
フィンレーズの会が『新・レポート不妊——不妊治療の実態と生殖技術についての意識調査報告』を出版: 鈴木良子, 10, 80.

クローズアップ

昔も今もグループ・プラクティス 瑞穂助産所(名古屋)の先輩たちと現代の助産婦, 1, 1.

夢を実現。「お産の家」を完成させた 大野明子医師, 2, 1.

「ウイメンズサロン」を開いて1年半がたった助産婦の矢島床子さん, 3, 1.

厚生省看護課の助産婦係長に着任した 阿部みほか氏, 4, 1.

妊婦さんの心もからだも元気にします。リフレクソロジーの長須千賀子さん, 5, 1.

「国境なき医師団」の一員としてアフガニスタンで活動。助産婦の渡辺知さん, 6, 1.

ガーナの助産の発展に貢献したい。アイリス・ボッチュエさんとマーティ・まりこさん, 7, 1.

小牧市保健センターで、乳幼児健診の通訳をつとめています。日系ブラジル人のルデスシェル・エルザ・ヤヨイさん, 8, 1.

子どもと生きることに価値を見いだして保育士になった 矢吹秀徳さん, 9, 1.

無事にアユムくんを出産した 天才チンパンジー「アイ」ちゃん, 10, 1.

「健康開発には学際的アプローチが不可欠」。WHO 神戸センターの川口雄次所長, 11, 1.

21世紀にも羽ばたきます 桃太郎助産院三代の助産婦, 12, 1.

いのちの響き・宮崎雅子

ウェルカム、双子ちゃん, 1, 4.

つぶらな瞳の中に, 2, 4.

女たちからの祝福, 3, 4.

産声よ響け, 4, 4.

家族で産む, 5, 4.

母の掌, 6, 4.

まあい地球, 7, 4.

太陽を浴びて, 8, 4.

ひとつの布団で, 9, 4.

大きくなあれ, 10, 4.

守り姉, 11, 4.

21世紀への伝言, 12, 4.

とらうべ

医者だって育児休暇がほしい: 林寛之, 1, 5.

顔面トラウマ: 石井政之, 2, 5.

すてきなことは近くにある: 伊藤朋子, 3, 5.

行きつけば研究: 芦田千恵美, 4, 5.

生きる喜び: 大沢真知子, 5, 5.

保健医療の「非医学化」: 若井晋, 6, 5.

日本にはすでに多くの「助産士」がいる: ターナー節子, 7, 5.

ナマケモノの生き方: 中川圓, 8, 5.

ガルシニアダイエットのエビデンス: 福岡敏雄, 9, 5.

13,000人の赤ちゃんをとりあげた助産婦の母: 栗原稔, 10, 5.

パッチアダムスの伝言: 高柳和江, 11, 5.

新世紀への架け橋: 原田勝広, 12, 5.

今月のニュース診断: 斎藤有紀子

“集団”に対する医学研究とインフォームド・コンセント, 1, 6.

出生前診断とART—その倫理問題の重なりをめぐって: 斎藤有紀子, 2, 6.

レシピエント・コーディネータの意義と必要性—移植におけるケアと人権保障のために, 3, 6.

母体保護法と女性の自己決定—一人工妊娠中絶の現代的意味を考える, 4, 6.

ES細胞とインフォームド・コンセント, 5, 6.

産む自由/産まない自由の変容—胚・配偶子授受の時代を迎えて, 6, 6.

看護・助産研究の倫理—インフォームド・コンセントと個人情報保護, 7, 6.

未成年者の医療上の自己決定権 その1—脳死判定と臓器提供, 8, 6.

未成年者の医療上の自己決定権 その2—人工妊娠中絶の意思決定と手術の同意, 9, 6.

「健康」「予防」概念の功罪, 10, 6.

一つの生命は他の生命の犠牲にされてよいのか: 加藤秀一, 11, 6.

遺伝子検査と生命保険—検査のリスク/診断の意味

BOOKS

「性別」に問題提起する3冊の本, 2, 60.

吉村典子(編)『出産前後の環境』, 3, 32.

『夫が妻に暴力をふるうとき』, 7, 14.

マイブック

『避妊ガイドブック—避妊の医療と相談援助・性教育のために』: 早乙女智子, 1, 84.

『産む側 2200 人が語る お産って何だろう』：阿部真理子，4，88。
『文化としての生殖技術—不妊治療にたずさわる医師の語り』を出版して：柘植あづみ，5，82。

書評

『New Epoch 産科外来診療：松田義雄』，1，70。
『遺伝カウンセリング 面接の理論と技術』：左古かず子，7，89。

新刊紹介

『母性愛 神話のまぼろし』，5，86。
『低用量ピル適正使用マニュアル』，5，87。

りれ一随筆

私が歩んできた看護の道：日高由美子，1，86。
患者の立場を体験して得たもの：古厩志保子，2，84。
「不惑の年」というけれど……：鮎澤幸枝，3，88。
「出会い」が私の宝物：三村春美，4，90。
笑顔のおばあちゃん：渡辺明美，5，84。
子育て・親育ち：佐藤和子，6，94。
助産婦っていいね！：北尾智子，7，90。
仕事と育児：藤森紀子，8，84。
エネルギーあふれる福島県のお産婆さんたち：廣田英

子，9，88。

花の女子大生生活を満喫：野澤美江子，10，82。
パラグアイで学んだこと：末光ゆき子，11，94。
わたしの母の眠り：江渡綾子，12，78。

Medical Scope：島田信宏

「久しぶりやん会」，1，89。
MAM(マム)通信，2，87。
クリティカル・パス，3，91。
吸引分娩についてももう一度考えてみよう，4，93。
妊娠中期発症高位破水例の新治療法，5，89。
破水診断薬の新しい臨床応用，6，97。
ダウン症候群胎児の妊娠初期診断，7，93。
妊娠中のスキンケア，8，87。
PGE₁ による頸管熟化・分娩誘発・分娩促進，9，91。
分娩停止・難産からの帝切適応，10，85。
サイトメガロウイルス(CMV)の母子感染(1)，11，97。
サイトメガロウイルス(CMV)の母子感染(2)，12，81。

その他

読者のこえ「読者カード」から，1，88。
出産準備クラスまめ知識：硬膜外麻酔：戸田律子，10，49。

■からだの構造と機能を豊富なイラストで絵解き，病態生理も平易に解説

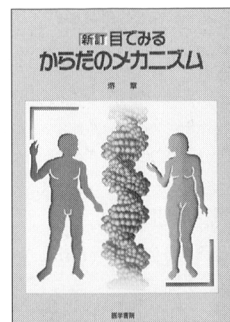
新訂 目でみるからだのメカニズム 新刊

堺 章 大阪大学名誉教授

からだの構造と機能は不可分の関係にあり，両者を合わせて理解することが重要である。本書では，両者を豊富なイラストで絵解きしつつ，異常がおきた場合（病気）の病態生理を平易に解説。新訂版では，初版以後，新しくなった部分を加え，さらに充実させた。看護学生をはじめ薬学・臨床検査，あるいは介護領域の学生の入門書として最適。

●A4 頁196 色図100 2000

定価(本体3,000円+税) 送料実費 [ISBN4-260-33095-0]



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3 (販売部) TEL 03-3817-5657 FAX 03-3815-7804
E-mail sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp 振替 00170-9-96693